

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 三好俊吉 氏

一般社団法人日本鉄鋼協会名誉会員。元日本鋼管株式会社代表取締役社長、JFE ホールディングス相談役 三好俊吉氏は、令和2年4月25日、逝去されました。享年91歳。逝去の報に接し、謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和26年東京大学第一工学部冶金学科卒業後、日本鋼管株式会社に入社、昭和50年福山製鉄所製鋼部長、昭和54年製鉄エンジニアリング部長、昭和57年に取締役役に就任し技術開発本部技術研究所長、昭和60年に常務取締役鉄鋼事業部福山製鉄所長、昭和63年専務取締役新材料事業部長、平成2年代表取締役副社長、平成4年代表取締役社長、平成9年代表取締役会長に就任し、平成18年にJFE ホールディングスの相談役を退任されるまで各要職を歴任されました。

氏は、日本鋼管入社後一貫して製鋼部門にあり、日本の製鋼技術の近代化に貢献されました。若きエンジニアとして純酸素上吹き転炉法（LD法）の導入にあたり、その技術を習得して日本における基礎技術の確立に尽力しました。その後、薄板製品の需要を喚起した深絞り性と遅時効性を備えた薄板用低炭素・低窒素鋼の製造技術の先駆けを築きました。また、スラブ連続铸造においては、無酸化铸造や軽圧下铸造によるスラブ内質改善技術等により、高級鋼製造技術の発展に大きく貢献しました。

次に、製鉄エンジニアリング部長として我が国で練磨された優れた製鉄技術を、発展途上国はもとより、先進国に対しても積極的に技術協力を進めてきました。また、技術研究所長や福山製鉄所長として、工程の連続化例えば連続铸造 - 熱延ラインの直結化等の技術開発を積極的に推進すると共に、この間を通じて技術者の育成に特に心がけてきました。その後、初の技術系社長としてバブル崩壊後の困難な時代に、「技術のNKK」の発展に多大な貢献をされました。

氏は、本会の運営にも尽力し、評議員・理事を歴任すると共に、平成4年より2年間本会会長を務められました。会長としてその後「リストラ80」と呼ばれた本会の機構や運営の抜本的改善を提唱し、その実現に指導的役割を果たされました。

このように氏は、わが国の鉄鋼、特に製鋼技術と本会の発展に対する貢献が極めて大きく、これらの功績に対して、本会から昭和57年渡辺義介記念賞、平成2年香村賞、平成7年渡辺義介賞を受賞されると共に、平成11年に名誉会員に推挙されました。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽くされた多大な業績を偲び、会員一同、心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和2年7月

日本鉄鋼協会 会長 小野山 修平